

クイックガイド

 **混合燃料** 無鉛レギュラーガソリン 25:1 2ストローク用オイル

左記以外や25:1~50:1
のような幅を持たせた
混合燃料使用不可

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に
本ガイドとWEB取扱説明書を必ずお読みください。
ご使用前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。

詳細は
WEB取説を
ご覧ください



ハイガー株式会社はSDGs・カーボンニュートラルの取組の一環として、紙の取扱説明書を大幅に削減いたしました。
どうぞご理解ください。



安全上のご注意

お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■表示内容を無視して、誤った使い方をしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



この表示の欄は「死亡または重症を負う恐れがある」内容です。



この表示の欄は、「軽症、物的損害、故障が生じる恐れがある」内容です。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。

!警告（製品に係る安全事項）



禁止

本製品は、薬剤や肥料などを散布する機械です。指定された用途以外には使用しないでください。

エンジンが熱いうちは、給油しないでください。

燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。

運転時、給油時は喫煙など火気を発生させないでください。

換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。

回転している部分の近くに手または足を入れないでください。

エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。やけどする恐れがありますので触らないでください。

改造、分解は絶対に行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。また、弊社の保証サービスは一切受けられなくなります。

正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。

未成年者の単独使用は禁止です。成年者の監督下で作業してください。

成年者でも、操作の仕方がよく分からぬ場合は、独自の使用をしないでください。



強制

燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。

燃料をこぼさないように注意してください。

燃料がこぼれた場合は、直ちに拭き取ってください。

燃料キャップは確実に閉めてください。

アースチェーンは確実に取付けてください。

エンジンを始動する時は、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

始動前点検を実施してください。

使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。

燃料は潤滑油混合ガソリンを使ってください。

本製品をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。

子供の手の届かない安全な場所に保管してください。

ご使用前にこの説明書をお読みになり取扱の注意事項をよく理解したうえでご使用ください。

⚠ 注意 (製品に係る安全事項)

 禁止	古い燃料は使用しないでください。	 強制	使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
	燃料タンクに、2ストローク用オイルだけ、無鉛ガソリンだけを入れないでください。		長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜取り、火気のないところに保管してください。
	燃料タンクに4ストローク用オイルを入れないでください。		部品交換は、純正部品を使用してください。
 強制	燃料は25:1の混合燃料を使用してください。	 強制	定期点検整備を行ってください。
	給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。		弊社は、燃料の販売はしておりません。必ず別途燃料をご準備ください。

⚠ 警告 (作業に係る安全事項)

 禁止	身体の調子が悪い時や、判断力に影響するような酒類、薬物を服用している時は使用しないでください。	 強制	運転中は、排気ガスに十分注意してください。
	動作中に噴霧ノズルや回転部分に顔や手足を近づけないでください。		長い髪は束ねて帽子等でカバーしてください。
	ご使用時は、使用者から15m以内は危険です。人やペットが入らないようにしてください。		適切な間隔で休憩をとってください。
	夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くない時は使用しないでください。		本機から離れる時は、必ずエンジンを停止してください。
	足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。		危険を感じたり、予測される場合は、必ずエンジンをすぐに停止してください。
	はしごや脚立などの不安定な場所、姿勢で使用しないでください。		少しの移動でもエンジンを停止して運搬してください。
	急傾斜地では使用しないでください。		持ち運ぶ時は、エンジンを停止し燃料タンクから燃料を抜いてください。
	燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。		薬剤の使用にあたっては、薬剤の説明書に従ってください。
	機械の可動部分に絡まるような衣服は着用しないでください。		突然の散布を防ぐため、エンジン始動時は、調量レバーを「0」にした状態で行ってください。
	やけどや火災の恐れがありますので強酸性の薬剤・シンナー・ガソリン・ベンジン等は絶対に使用しないでください。		散布作業中は常に風向きを考え、風上から風下に散布して薬剤が身体に直接付着しないように十分ご注意ください。
			薬剤の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護メガネ、保護マスク、ゴム手袋、長袖、長ズボン、ゴム長靴を着用し皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。

⚠ 注意（作業に係る安全事項）

禁止	機械の可動部分に絡まるような衣服、装飾品、タオルなどは着用しないでください。	強制	薬剤タンクキャップは、薬剤が漏れないように、しっかりと閉めてください。 自動車等で運搬される場合は、タンクキャップをしっかりと閉めて、傾かない状態に固定してください。
	人やペットに向けて散布しないでください。		使用後は薬剤タンク内の残液を抜き、清水を入れポンプを数分間（2～3分）運転し、ポンプ、ホース、ノズル等の内部に残っている薬剤をきれいに流してください。
強制	万一に備え、救急箱、タオル、外部連絡用電話を用意してください。		薬剤は必ず調合してからタンクに入れてください。
	本機を長時間保管する時は、取扱説明書に従って保管してください。		屋内の直射日光が当たらず、風通しがよく、凍結しない、子供の手の届かない場所に保管してください。
	タンクに薬剤を入れる時は、必ず備え付けのタンクストレーナ（こし網）を通してください。		気温が高くなる昼の時間帯は熱中症のリスクが高くなります。散布作業は、危険を感じる時間帯の行わず、朝または夕方の涼しい時間帯をお勧めします。
	充填時にこぼれた薬剤をその場できれいに拭取ってください。		

ポジティブリスト制度について

食品衛生法では、農産物に残留する農薬の基準として「ポジティブリスト制度」が導入されています。これにより、今まで基準が決められていなかった農産物にも、全国一律で厳しい基準が設けられました。

定められた基準を超える農薬が残留する食品は販売等が禁止されるため、農薬を散布する際は、薬剤が周囲のほ場へ飛散（ドリフト）しないよう、これまで以上に注意が必要です。ドリフトは、周囲のほ場の作物に影響するだけでなく、近隣住民への迷惑や、湖沼・河川などの水源を汚染する原因にもなり、環境への悪影響を引き起こします。

このような理由から、農園の外に農薬がドリフトしないよう、細心の注意を払うことが求められています。

ポジティブリスト制度とは？

食品衛生法に基づき、残留基準値が設定されていない農薬でも、厚生労働大臣が定める一定量（人の健康に影響がないとされる量）を超えて含まれる食品の販売を原則禁止する制度です。

※散布しようとする作物以外に農薬がドリフトしないように細心の注意をして散布しましょう！

●農薬散布時は必ず守りましょう。

- ①風の弱い時に散布します。
- ②散布の位置や方向に注意します。
- ③適正な量を散布します。
- ④園地の端部では特に注意します。
- ⑤薬剤タンクやホースをしっかりと洗浄します。

各部の名称

※本取扱説明書に掲載されている写真はプロトタイプのため、本製品と仕様が異なる場合があります。



※写真は HG-3WF-3

梱包部品一覧

- ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取り出し、全てのユニット・アクセサリに不足・問題がないことを確認してください。
- 製品を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。万が一損傷が見受けられた場合は、運送会社に1週間以内に連絡をしてください。
- 梱包材を慎重に検査し、使用する前に廃棄しないでください。不足している場合は、お手数ですが弊社までご連絡ください。

⚠警告

不足しているものがある場合は、不足している部品を入手するまで使用しないでください。

A. 本体 (HG-3WF-3)	B. 噴霧ノズル	C. カーブパイプ
		
D. ストレートパイプ	E. フレキシブルパイプ	
		
F. 顆粒用プレート 粒剤の散布可能サイズは4~8.5mmです。	G. ボルト (※ 1)	
		
H. 透明ホース×2	I. アースチェーン	
		
J. スパナ★	K. 六角レンチ★	L. 混合タンク
		
M. ワイヤクランプ×2	N. 点火プラグレンチ★	
		
O. 吐出口キャップ (※ 2)	P. ホースクランプ×4	
		

★印はサービス品です。予告なく同梱終了になる場合があります。ご了承ください。

※上記写真はプロトタイプのため、製品仕様と異なる場合や部品が本体に取付済みの場合があります。

※梱包時の都合で付属品が一部、タンクの中に入っている場合があります。
(※ 1) 整備に使用するボルトなので、保管してください。

(※ 2) 吐出キャップは、HG-3WF-3 と HG-3WF-3A で大きさが異なります。

■ご用意いただくもの

混合燃料を作る場合に必要なもの

- 無鉛レギュラーガソリン
- 2ストローク用オイル (JASO FB または FC、FD)
- 漏斗 (じょうご)

主要諸元

	HG-3WF-3	HG-3WF-3A
モデル名		
エンジン	2ストローク	
エンジン出力 / 回転数	2.13kW/7500min ⁻¹	
燃料	混合燃料 (25 : 1)	
排気量	41.5cm ³	
最大吐出量	液剤 4kg/分 粉剤 6kg/分 粒剤 6kg/分	
タンク容量	14L	26L
燃料タンク容量	1.4L	
重量	約 11kg (※タンクが空の状態)	約 13kg (※タンクが空の状態)
サイズ (W × D × H)	約 490mm × 約 420mm × 約 710mm	約 560mm × 約 420mm × 約 790mm

◎弊社は、顧客満足度 100%を目指し、日々製品 (部品やカラーも含め) の改良を行っています。

そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。

また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

組立て

⚠警告

- 組立てを行う時は、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 組立て中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。

⚠注意

接続部から液漏れがないようしっかりと締めてください。

パイプの組立て

本体側パイプとフレキシブルパイプの接続

フレキシブルパイプと
ワイヤクランプを用意
します。



フレキシブルパイプ ワイヤクランプ

- 1 ワイヤクランプを本体側パイプに通してから、パイプに貼ってあるラベルを合わせるようにフレキシブルパイプを挿込みます。



(粉剤、粒剤散布の場合)アースチェーンを取り付けます。
(WEB取説の組立て「アースチェーンを取り付け」参照)

- 2 パイプをワイヤークランプで締めて固定します。



ストレートパイプとフレキシブルパイプの接続

ストレートパイプとワイヤークランプを用意します。

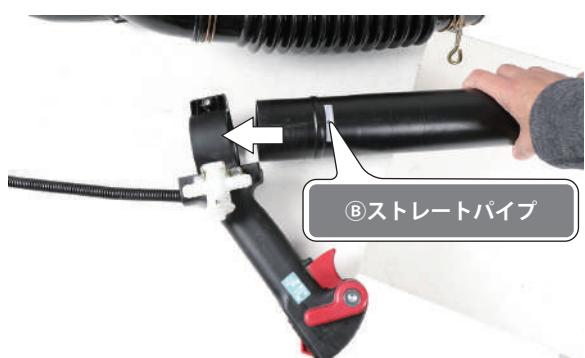


ストレートパイプ



ワイヤークランプ

- 3 ストレートパイプに貼ってあるラベルを合わせてグリップの輪の部分を通します。



- 4 付属のプラグレンチでグリップの輪のネジを締めて固定します。



- 5 ワイヤークランプをフレキシブルパイプに通してから、パイプに貼ってあるラベルを合わせるようにストレートパイプを挿込みます。



- 6 パイプをワイヤークランプで締めて固定します。



ストレートパイプとカーブパイプの接続

カーブパイプを用意します。



カーブパイプ

- 7 パイプに貼ってあるラベルを合わせるようにストレートパイプにカーブパイプを挿込んでから、ストレートパイプを矢印の向きに回して、固定します。



ストレートパイプと噴霧ノズルの接続

粉剤、粒剤散布を行う場合には、粉剤、粒剤が噴霧ノズルの口を破損する可能性があるため、取付けは不要です。

噴霧ノズルを用意します。



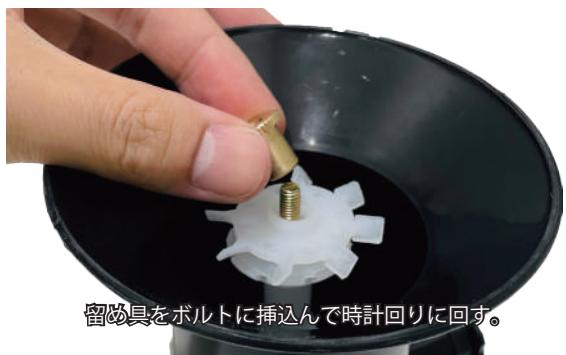
- 8 パイプに貼ってあるラベルを合わせるようにカーブパイプに噴霧ノズルを挿込みます。



霧状散布を行う場合は WEB 取説の組立て「透明ホースの取付け」へ進みます。

△注意

購入時に噴霧ノズルのプラスチックの風車と留め具が外れている場合は、風車の中心部分が長い方をボルトに挿込んでから、留め具を挿込んで時計回りに回すと、風車が固定されます。



透明ホースの取付け

霧状散布で使用する場合

透明ホース×2とホースクランプ×4を用意します。



- 1 薬剤タンク横の挿入口に、ホースクランプを通して透明ホースを奥までしっかりと挿込み、クランプで固定します。



- 2 薬剤コックの挿入口に、ホースクランプを通して透明ホースのもう一方を挿込み、クランプで固定します。



- 3 薬剤コックのもう一方の挿入口に、もう一つのホースクランプを通して透明ホースを挿込み、クランプで固定します。



- 4 噴霧ノズルの挿入口に、ホースクランプを通して透明ホースのもう一方を挿込み、クランプで固定します。



アースチェーンの取付け

粉剤、粒剤散布で使用する場合

アースチェーン

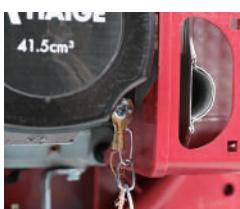
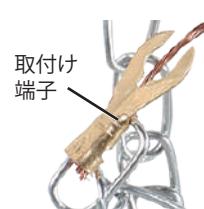
薬剤を散布すると、薬剤の種類や気温、湿度等の条件により、静電気が発生することがあります。使用時は、アースチェーンを必ず装着してください。



- 1 リコイルスターターの右下のネジを付属のプラグレンチのドライバーで緩めます。



- 2 緩んだネジの間にアースチェーンにある取付け端子を下から挟んで、ドライバーでネジを締付け直します。



- 3** アースチェーンに付いているワイヤ線は、フレキシブルパイプを組立てる時、パイプの中に通してください。アースチェーンはパイプから出したままにします。



- 4** アースチェーンは地面に接地させます。

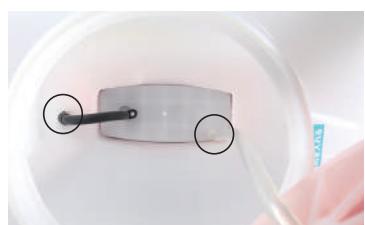


水プレートから顆粒プレートへの交換

粉剤、粒剤散布で使用する場合

製品出荷時は、霧状散布用の仕様になっています。

- 1** タンク内の黒いホースをタンクの吐出口を取外します。タンクキャップに接続している透明なホースも取外します。



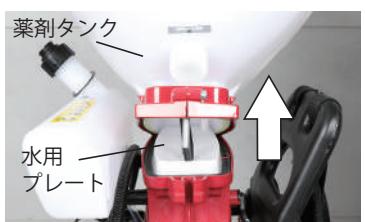
- 2** 透明ホース接続用のキャップを付属の吐出口キャップに差替えます。



- 3** 薬剤タンクの左右のナットとワッシャを付属のスパナで取外します。



- 4** 薬剤タンクと水用プレートを取り外します。



- 5** 顆粒用プレートを台座に載せます。

背当てを手前にした時に、左の幅が短い状態で顆粒用プレートを載せます。



- 6** 薬剤タンクを台座に載せます。



- 7** 手順3で取外したナットとワッシャを付属のスパナで取付け直します。

- 8** タンクキャップを閉めます。
取付けは以上です。



顆粒プレートから水プレートへの交換

霧状散布で使用する場合

製品出荷時は、霧状散布用の水プレートが取付済みのため、霧状散布をしたい場合はプレートを交換する必要はありません。

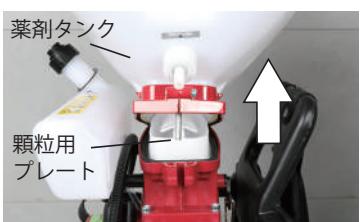
- 1** 吐出口キャップを透明ホース接続用のキャップに差替えます。



- 2** 薬剤タンクの左右のナットとワッシャを付属のスパナで取外します。



- 3** 薬剤タンクと顆粒用プレートを取り外します。



- 4** 水用プレートを台座に載せます。



背当てを手前にした時に、左の幅が短い状態で顆粒用プレートを載せます。

- 5 黒いホースをタンクの中に入れながら、タンクを載せます。



- 6 手順2で取外したナットとワッシャを付属のスパナで取付け直します。

- 7 タンク内の黒いホースをタンクの吐出口に接続します。タンクキャップに接続している透明なホースをもう一つの穴に接続します。



- 8 タンクキャップを閉めます。
取付けは以上です。



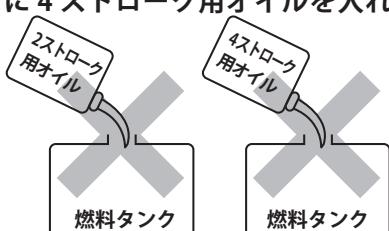
運転前の点検

⚠️ 警告

- エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- 運転時、給油時は喫煙など火気を発生させないでください。
- 燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 燃料をこぼさないように注意してください。
- 燃料がこぼれた場合は、直ちに拭き取ってください。
- 燃料は、無鉛レギュラーガソリンと2ストロークエンジンオイルの混合燃料を使用してください。
ガソリンだけで運転するとエンジンが焼き付きます。
- 混合燃料は、一度に使い切るだけ作ってください。

⚠️ 注意

- 燃料キャップは確実に閉めてください。
- 長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のない所に保管してください。
- 給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
- 弊社は、燃料の販売はしておりません。必ず別途燃料をご準備ください。
- 燃料タンクに、2ストローク用オイルだけを入れないでください。
- 燃料タンクに4ストローク用オイルを入れないでください。



混合燃料 25:1 の作り方

市販の 25:1 ~ 50:1 というような幅を持たせた混合燃料やその他使用範囲のある混合燃料は、絶対に使用しないでください。
エンジン焼き付きの原因になります。

★必ず指定のオイルを指定された割合で混合してください。

- 1 • 無鉛レギュラーガソリン
• 2ストローク用オイル JASO FB 級以上を準備します。
- 2 500ml の無鉛レギュラーガソリンを入れる場合は規定量①(500 の目盛り)まで入れます。



- 3 2ストローク用オイルを②(25:1 の目盛り)まで入れると 20ml 入ります。キャップをしっかりと閉め、混合タンクを振り、カクハンドします。

25:1 ガソリン オイル割合 早見表	ガソリン	オイル	ガソリン	オイル
100ml	4ml		400ml	16ml
200ml	8ml		500ml	20ml
300ml	12ml		600ml	24ml

運転前の点検

燃料の点検・補充

燃料の量を点検し、不足している場合は補給します。

■燃料の給油

- 1 混合燃料(25:1)を準備します。(WEB取説の運転前の点検「混合燃料25:1 の作り方」参照)

- 2 燃料タンクキャップを開けます。



- 3 混合燃料(25:1)を、少しづつこぼさないよう漏斗(じょうご)等を使い給油します。



- 4 給油が終わったら燃料タンクキャップをしっかりと閉めます。

薬剤タンク、タンクストレーナ（こし網）の点検

薬剤タンク内の汚れおよびタンクストレーナ（こし網）の汚れ、破損を点検します。

- 1 薬剤タンクキャップを取り外します。



- 2 タンクストレーナ（こし網）が汚れている場合は、清水で洗浄してください。

- 3 薬剤タンク内に薬液が残っていたり、汚れがあった場合は、清水で洗浄してください。

吐出量の調整

粉剤、粒剤散布で使用する場合

吐出量の調整を行います。必要に応じて、適切な位置でご使用ください。

■切り替え

- 1 調量レバーを中間の位置(5の位置)にセットします。



- 2 切替アームに取付けられているロッドをピンを抜いて取外します。



- 3 セットしたい切替アームの穴にロッドを挿込み、再度ピンでとめます。



排出量のセット位置

吐出量	少量	中量	多量
粉剤	○	○	
粒剤 (除草剤)	○		○ (肥料)

○：適切な吐出量

運転操作の仕方

！警告

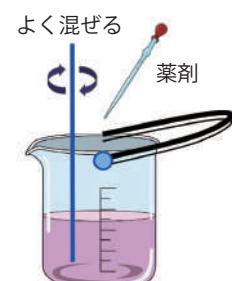
- ・薬剤は、必ず薬剤の取扱説明書に従ってください。
- ・前回使用した薬剤が残っていないか確認してください。薬剤が混ざると、化学変化を起こして有毒ガスが発生する恐れがあります。
- ・薬剤タンクに薬剤を入れる時は、必ず備え付けのタンクストレーナ（こし網）を通してください。
- ・ベンジンやガソリンなど可燃性の液体や溶剤、園芸薬剤以外や、酸性及びアルカリ性の液体、油性薬剤、畜産用薬剤、ケルセン水和剤は絶対に使用しないでください。その他、上記のような成分を含んだ薬液も使用しないでください。

！注意

- ・薬剤は規定容量以上入れないでください。
- ・薬剤の取扱いは十分に注意し、体に付着した場合は、よく洗い流してください。

薬剤の調合

- 1 薬剤は、別の容器で調合します。特に、水和剤はよく溶かしてください。十分溶けていないと、散布機の寿命や性能に悪影響を及ぼします。



薬剤の充填

初めてエンジンを始動する場合やしばらく始動しなかった場合は、まずタンクに清水を入れて始動テストを行ってください。（WEB取説の運転操作の仕方「エンジン始動テスト」参照）

- 1 薬剤タンクキャップを外して、調合した薬剤を薬剤タンクに入れます。

その際、必ず備え付けのタンクストレーナ（こし網）を通してください。充填時にこぼれた薬剤は、その場できれいに拭取ってください。



- 2 薬剤タンクキャップをしっかりと閉めます。

⚠️警告

禁止

- ・燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
- ・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触るとやけどをすることがありますので高温部に触れないでください。

指示

- ・突然の散布を防ぐため、エンジン始動時は、調量レバーを「0」の状態にして行ってください。
- ・平坦な場所で作業を行ってください。
- ・倒れないようにしっかりと本体を保持してください。
- ・エンジン始動後、異常を感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。
- ・本機から離れる時は必ずエンジンを停止してください。

⚠️注意

エンジンを始動する時は、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

エンジン始動テスト

散布する前に清水を薬剤タンクに入れて、エンジン始動テストを行ってください。
霧状散布ができるパイプで組立ててください。(WEB取説の組立て「パイプの組立て」参照)

- 1 薬剤タンクに清水を2L程度入れます。

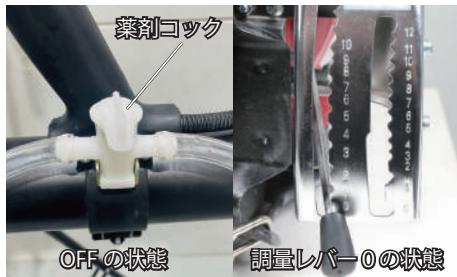


- 2 混合燃料を燃料タンクに入れます。

燃料の作り方は、WEB取説の運転前の点検「混合燃料 25:1 の作り方」参照。



- 3 霧状散布の場合は、最初にグリップにある薬剤コックをOFFにし、粉剤、粒剤の場合は、調量レバーを「0」の位置にします。
「0」以外の位置にレバーがあるとエンジン始動と同時に噴出します。



- 4 エンジンスイッチをONにします。



- 5 アクセル固定レバーを「少し上」にする。



- 6 燃料コックをONにします。



- 7 チョークレバーを上にします。

エンジンが温まっている時はチョークレバーを下にします。チョークレバーについては、(WEB取説の運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照)。



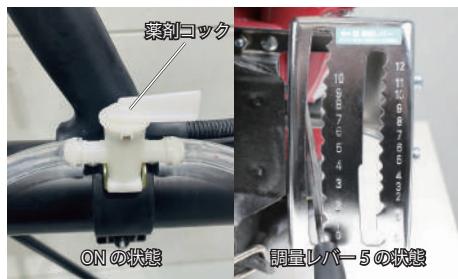
- 8 リコイルスターを正しく引きます。

リコイルスターについてWEB取説の運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照。

- 9 初爆(ブルン!というかかりそうな音)が確認できたら、チョークレバーを下にします。(WEB取説の運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照)。

- 10 再度、リコイルスターを引くとエンジンがかかります。

- 11 グリップにある薬剤コックをONにし、粉剤、粒剤散布中は、調量レバーを「0」以外の位置にします。少しづつ薬剤が出てきます。



- 12 調量レバーを「0」から徐々に上げていくと、パイプから清水が出ることを確認します。



エンジンのかけ方

出荷時には燃料は入っていません。給油後に操作をしてください。

△注意

空運転防止のため、必ず薬剤タンクに水または薬剤を入れてから、エンジンをかけてください。

■エンジンが冷えている時のかけ方

※外気温には関係なく、エンジンそのものが冷えている場合です。翌日の再始動などがこれに当たります。

- 1 グリップにある薬剤コックをOFFにし、調量レバーを「0」の位置にします。
「0」以外の位置にレバーがあるとエンジン始動と同時に噴出します。



- 2 エンジンスイッチをONにします。

- 3 アクセル固定レバーを「少し上」にする。

- 4 燃料コックをONにします。

- 5 チョークレバーを上にします。



- 6 本機をしっかりと保持し、リコイルスターターロープを引きます。

※ロープを引き出すと止まる位置があるので、そこから素早く引きます。おおよそ 60 ~ 70cm 引きます。ロープは一杯に引ききらないでください。引きが少ないとエンジンはかかりません。



△注意

チョークレバーを上にした状態で、リコイルスターを引き続けると燃料を吸い込みすぎて、エンジンが始動しにくくなります。

万が一、濡らしてしまった場合は、WEB 取説の困ったときの対処法（点火プラグの点検）へ進みます。

- 7 初爆…「ブルンッ」というエンジンがかかりそうな音が一回だけ起こるまで、5回繰り返します。

△注意

ロープを最後まで引き切らないでください。
引いたリコイルスターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。

リコイルの引き方ポイント

※写真は、別機種



①良い例：約 70cm 引く。

②良い例：穴に対してロープが真っ直ぐ。

③悪い例：抵抗がありエンジンがかかりにくく、ロープが摩擦で切れやすい。

●初爆が確認できた場合

- 1 チョークレバーを下にします。



- 2 リコイルスターを素早く数回引きます。

※エンジンが冷えている時や燃料切れで補充した時は、10回以上ロープを引くことでエンジンがかかりやすくなります。

- 3 「●エンジンがかかったら」に進みます。

●初爆と同時に始動した場合

- 1 チョークレバーを下にします。



- 2 「●エンジンがかかるたら」に進みます。

■エンジンが温まっている時のかけ方

※外気温には関係なく、エンジンそのものが温まっている場合です。再始動などがこれに当たります。

- 1 チョークレバーを下にします。



- 2 本機をしっかりと保持し、リコイルスタートーを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから真っすぐに素早く 60 ~ 70cm 引張ります。エンジンがかかるまで数回繰り返します。

※引く距離が短いとエンジンはかかりません。



- 3 「●エンジンがかかるたら」に進みます。

●エンジンがかかるたら

- 1 エンジンがかかるたらすぐチョークレバーを下にします。



- 2 エンジンが始動したら、3 ~ 5 分程度、暖気運転をします。散布作業に入る場合は、「散布作業」に進みます。

⚠ 警告

排気ガスには十分に注意してください。

※詳細はWEB取説をご覧ください。

保証内容について

2025.10 現在

本規約は、ハイガー（以下「弊社」とする）を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。

弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますのでご安心ください。

返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

1. 保証の期間

商品発送日（ご来店引取の場合ご来店日）から 1 年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は 6 ヶ月といたします。

保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。

商品発送日より 7 日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

2. 保証の適用

・お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。（以下、この無料修理を「保証修理」とする）往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。

・保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。

・本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定ができる場合、保証が受けられない可能性があります。

・本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点では保証は無効となります。

3. 保証適用外の事項

（1）純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合

（2）保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合

（3）一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合

（4）取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合

（5）示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合

（6）弊社が認めていない改造をされたもの

（7）地震、台風、水害等の天災により生じたもの

（8）注意を怠った結果に起きたもの

（9）薬品、雨、雹、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの

（10）使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象（退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等）

（11）機能上影響のない感覚的な現象（音、振動、オイルのにじみ等）

（12）弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品

（13）使用することで消耗する部品または劣化する部品（ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ペアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーター・ブレード、チェーン、バルブ内部の部品、バネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャーピング等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリ、点火プラグ等）

（14）保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等

（15）商品を使用できなかったことによる損失の補填（休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等）

4. 別扱いの保証

部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

5. 保証修理の受け方

まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡をください。

またはお近くの修理協力店へご連絡をしてください。

症状・使用状況を伺い、手順方法をご案内させていただきます。

6. 注意事項

・動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料やオイル、水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合があります。

・部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただくことがあります。

・仕様変更などにより同時交換部品が発生する可能性があります。

・仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しかできない場合があります。

・生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。

・無在庫販売者（送り先が毎回違う購入者）の場合は、販売者より購入した商品の場合、保証は無効となります。

また発覚次第販売者への措置を取させていただきます。

■アフターサービスについて■

1. 販売機種が対象となります。※弊社で商品をお買い上げの方に限られております。

2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。

3. 保証期間（1 年間）を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。

4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。

5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。



〒370-0603

群馬県邑楽郡邑楽町中野5298-1

ハイガーオフィシャル検索
<https://haige.jp/>